

同窓会会報

第79号

平成18年10月20日

発行所
茨城県水戸市鯉淵町5965

鯉淵学園同窓会

☎319-0323 TEL 029-259-2811
振替口座 宇都宮3-1632番

母校鯉淵学園の在り方等十分な組織協議を

鯉淵学園同窓会会長

須田 哲也

紅葉も鮮やかな時候となり、皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨秋の第27回定期大会におきまして、役員選考委員会の推薦により満場一致で会長に選任され、その責任の重大さを踏まえ、ご期待に応えるべく奮闘していく所存であります。先に同窓会のホームページではご挨拶申し上げましたが、会報上では発行が年一回のため、ご挨拶が遅れましたことご容赦をお願い致します。

さて、学園との同窓会の主要な役割は、学園が会員のかけがえのない母校として一層の発展のために、陰に陽に協力連携し、支援していくことにあります。このため同窓会として学園の動向等を報告しつつ、会員のニーズを踏まえて必要によつては種々の提言をはじめ、運動等を進めていくことも重要であると思ひます。

鯉淵学園は創立60周年を経りましたが、今日の時代の変化とともに学園運営の生命線ともいえる全国からの優れた学生確保が困難になっています。財政面におい

ても、農水省の補助金や農業団体寄付金の削減が続く、自賄い依存化しつつ逼迫してきています。農業の停滞に加え、著しい少子化の進行などこのままでは学園運営は危機的な事態に瀕するといつても過言ではありません。大学等学校間での優れた学生確保への競争が激化しており、学生はじめ広く一般から選ばれる学園づくりこそ重要不可欠といえます。

こうした状況にあつて、同窓会本部として昨年から常任委員会を中心に協議を重ね、「鯉淵学園の在り方及びその方策を巡る協議検討について」をとりまとめ、先般都道府県支部長並びに卒期別代表あてに組織協議とその結果報告等をお願いした次第であります。組織協議の集約を踏まえ、学園の在り方や展望方策等について具体化して参りたく存じます。尚、農民教育協会では、既に鯉淵学園経営刷新三ヶ年計画を設定し、教育・財政改革などに着手しています。

学園の在り方については、抜本的改革など強い意向が潜在しており、同窓会と

本部新役員紹介



会長
須田 哲也
16期 茨城
財団法人農民
教育協会理事



副会長
梅崎 孝臣
13期 茨城
茨城県支部長



副会長
住吉 達男
17期 東京
常任委員長兼務



副会長
九石 裕
23期 栃木
事務局長兼務

常任委員	
稲川 正夫	13期 茨城
倉辻 芳次	19期 茨城
皆川 洋治	23期 茨城
平塚 保裕	24期 茨城
根本 保夫	25期 茨城
小川 泰一	25期 栃木
野村 繁	27期 茨城
田部井敏明	24期 群馬
永岡 和明	22期 埼玉
清川 完司	24期 埼玉
加藤 成一	24期 千葉
富岡 忠明	44期 東京
志村 隆	23期 神奈川
新関八千代	23期 静岡

監事	
小沼 和重	29期 茨城
入江三弥子	29期 茨城
山本 英治	31期 茨城
佐久間もと子	35期 茨城
工藤 徹郎	40期 茨城
佐藤 利文	45期 茨城
前野 清子	45期 茨城
秋葉 勝矢	46期 茨城
浅津 竜子	47期 茨城
新地 通哉	13期 茨城
涌井 義郎	31期 茨城
前原 敬	16期 埼玉

評議委員

趣旨ご賢察のうえ、会員の幅広い組織協議、更に学生募集について特段のご協力を重ねてお願い申し上げます。

してそれまでの間当面する対策として学生確保について協力強化し、各支部から若干名の推薦についても併せてお願いしました。

会長退任のご挨拶

高橋 隆三

昨年十一月十二日の第二十七回同窓会大会をもって本会会長を退任いたしました。

任期は三期六年、主な事業として本会事務局体制の整備、会員名簿の発行、支部組織の強化、鯉淵学園創立六十周年記念事業に取り組み、まあまあの成果をあげることができました。これも偏に役員各位をはじめ会員各位のご協力ご支援が

あればこそで、皆様に対し改めて厚く御礼申し上げます。

後任の須田哲也会長は茨城県農業団体の中枢でご活躍され、各方面の信任も厚く本会会長として最適任者で、本会に新しい風を吹き込んで頂けると信じます。ご支援の程よろしく願います。

顧みると本会役員に在席すること五十二年、(常任委員十七年、事務局局長十六年、常任委員長六年、副会長六年、会長六年)本当に長い年月でした。いろいろ有難う御座いました。

創立60周年記念事業

同窓会募金活動の報告とお礼

鯉淵学園同窓会 会長 須田 哲也
時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

創立60周年記念の農産物直売所建設事業は計画通り昨秋に完成し、現在学園の新たなシンボルとして、更に学生の生きた実践的な教材を兼ねて事業展開されています。また、直売活動を軸に近隣地域の農業生産活動を刺激しつつ、地域興しにも期待が寄せられてきています。

鯉淵学園農産物直売所「農の詩」完成記念式典



力を得ることができました。近年にない多額の募金額の実現となりましたが、これも偏に会員の皆様の多大なるご協力、ご支援の賜と心から厚く御礼申し上げます。更には、都道府県支部、支部長及び卒期別代表の皆様には募金活動の再三の依頼にもかかわらず、繰り返しご尽力を頂くなど深く感謝を申し上げます。

さて、募金活動は目標額に対して76.3%の達成となりましたが、目標を達成できなかった要因などについて明確にし、これからの教訓としていかなければなりません。皆様のご支援、ご協力

により完成致しました農産物直売所には、全国各地の名産品など広く同窓生の出品を呼びかけておりますので、ご協力をお願い致します。

最後に、記念事業への同窓生及び役員各位のご尽力に重ねて御礼を申し上げます。ご報告と御礼に代えさせていただきます。

御 礼

鯉淵学園農業栄養専門学校
学園長 井上 隆弘

鯉淵学園は、高等農事講習所を前身として昭和20年に開校し、平成17年11月をもって満60年を迎えました。創立の当初は、日本農業再建のため、農業および農村生活の改善に関わる指導者の養成を目的とした農村青年の教育をおこなってきましたが、時々刻々変わる社会情勢の変化、農業・農政の流れなどに対応しながら学園の組織、学科構成、就学年数、教科課程、教育内容など多岐にわたって変貌を遂げてまいりました。



近年の若者の農業離れ、食生活への無関心など、国家的課題にも対応するため、



平成7年には、全国で初めての4年制の農業・生活専門学校とし、教育方針など鯉淵学園ならではの教育に重点化し、平成17年には鯉淵学園の正式名を「鯉淵学園農業栄養専門学校」と改名、全寮制の廃止など若者のニーズ、社会の要請に添えてまいりました。とくに、安全・安心な食料の生産・流通・販売に関わる若者ニーズの多様化に対応するため、「たねまきから食卓まで」を教育モットーとしたカリキュラムの改善を図りました。このために必要欠くことができない教育施設が農産物直売所であり、学園創立60周年を機に、私たちの長年の願いを学園同窓会にお図りし、ここに夢を添えて頂く運びとなったわけです。学園同窓会会員の皆様はじめ、関係各位に深く感謝申し上げます。

平成18年3月には、新たに農産物直売所運営委員会を設立、また、近隣農家による生産者会の立ち上げもあり、今後の円滑な運営についての議論の場が固まったところですので。この間も、皆様からの温かい募金はつづき、お陰様でトイレ、駐

車場、冷房機など外縁、内部施設の整備も完了致しました。直売所の経理は、独立採算が明確になるよう特別会計とし、運営に日々工夫をこらし、ようやく順調に進んでおります。

この直売所の開設を節目とし、学生の販売実習など新しい教育課題に取り組みと同時に、広く日本農業・食生活発展のため、教職員一同、一歩一歩努力を積み重ねていく所存であります。同窓生の皆様におかれましては、引き続きご理解、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

ご挨拶

財団法人農民教育協会

理事長 安橋 隆雄

鯉淵学園卒業生の皆様方には、創立60周年に際しまして、農産物直売所建設のために、多額の寄付金を拠出いただき、誠にありがとうございます。母校鯉淵学園の発展を願う皆様方の熱意がいかに大きいかをあらためて示して頂いたことに対し、心からお礼を申し上げます。

皆様方からの浄財をもとに、学園ではさつそく施設の建設にとりかかり、昨年9月に直売所をプレオープンしました。それ以来今日まで、施設は単に学園産の農産物を販売する場所としてだけでなく、学生には農産物販売の大切さと難しさを学びとる場として、また学園にとっては周辺の住民の方々の繋がりを深める施設として所期の目的を果たしています。また、卒業生の皆様方がお住まいの全国各地から送ってくださる農産物加工品も店頭に置いてあります。

品揃えの問題、価格水準の問題など利用者である周辺の住民の方々からリピーターとして数多く来ていただくために解決していかなければならない問題はありますが、学園ではこれらを克服して、直売所の隆盛を図るため全力をあげているところです。そうすることが、母校のた

農産物直売所「農の詩」

開設1周年の経過

運営委員会責任者 涌井 義郎

同窓生の皆様さんのお陰をもちまして、昨年の9月19日に農産物直売所を開店し、早いもので1周年となりました。日々の売り上げ額やお客さんの反応に一喜一憂しつつ、少しずつ常連のお客さんが増え、近隣にない特徴的な直売所としての評価が定まってきたようです。

環境保全・安心生産物

学園の直売所「農の詩」は、環境保全型農産物と安心加工食品をコンセプトとしましたので、そうした販売品を集めるのに、今も苦勞があります。年間を通じて陳列棚を満たす

めにお力を頂いた皆様方のご厚意に配慮することとなり、また、鯉淵学園の発展にもつながるものだと考えています。今後とも、農産物直売所の運営にご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。感謝と決意表明のご挨拶とさせていただきます。

のはなかなか大変ですが、学園の主旨を理解して参加してくれた地域生産者は40名（農家、加工業者、農協など）います。有機米、有機野菜、特別栽培米・野菜、パン、ジャム、団子、味噌、漬け物、鉢花、切り花、袋入り堆肥など様々です。今後はもつと生産者数を増やし、販売商品の種類を増やします。

同窓生生産物

同窓生の皆様さんからも、生産物の参加をいただいています。九州や中国地方からミカンやタマネギ、長野や山形からリンゴや西洋ナシ、栃木からナシ、北海道からジャガイモや豆類、長野から味噌やレタス、茨城県内から様々な農産物やジャムなど、紹介し切れませんがたくさんあります。今年の冬場も同窓生の皆様さんからの生産物を期待しています。新たな生産物提供も、どうぞお願いいたします。

同窓生の皆様さんの生産物は、原則として買い取りいたしますので、一定の保存性のあるものをお願いしています。生

産方法につきましては、各県の特別栽培のレベルをご参考に、安全安心生産物をご提供ください。

地域フェアなどイベントのお願い

鯉淵学園の最大の特徴は「全国規模」です。「全国でご活躍の同窓の皆様さんの成果を直売所で表現したい」というのが、この直売所の主旨の一つです。個別の生産物の展示販売はもとより、例えば「〇〇県同窓会支部フェア」のような企画を待ち望んでいます。「〇〇農協同窓生有志企画」などのようなイベントも結構です。どうぞ、同窓の皆様さんの直売所活用をご検討ください。

経営について

年間6000万円の売り上げが当面の目標です。年間300日営業で1日20万円となります。この1年間は、開店当初の昨秋が30〜15万円、冬場から7月くらいまでが10〜15万円でしたが、学園の果物が登場した8〜9月は25〜35万円となっております。18年度に6000万円の実現は難しい状況ですが、19年度には目標に近づきたいと努力して参ります。今後とも協力を、よろしくお願ひ致します。



鯉淵学園の近況と学生募集ご協力をお願い

教務部長 浦井 義郎

学園教育改善の経過

急激に進む少子化の荒波を乗り越えるために、鯉淵学園はここ数年、さまざまな取り組みを行ってきました。

- 環境保全型農業の総合研究
- 有機農業教育の導入
- 家畜体内受精卵移植師資格講習の実現（平成17年度から）
- 高度専門士称号（平成17年度卒業生から）
- 学校名改正「鯉淵学園農業栄養専門学校」（平成17年4月）
- 農業経営科学科カリキュラムの改善（平成18年入学生から）
- 生活栄養科学科、管理栄養士受験資格を得る1年間の「学生食堂実務経験栄養士制度」（平成18年度から）
- 希望入寮制度（平成18年度入学生から）
- 農産物直売所「農の詩」の開設（平成17年9月）
- 短期農業研修コースの設置（数年前からの学園独自1年コース・平成18年度開設の農水省事業半年コース）等々の対策です。

農業教育の危機

こうした精一杯の改善と学生募集広報活動の努力にもかかわらず、農業経営科学科入学者数の減少が止まりません。平成19年度は、生活栄養科学科入学者数を下回るかもしれないと心配しています。

先生方が手分けして全国の高校238校を訪問しましたが、多くの高校で「農業志向の生徒はいません」「少数が大学農学部進学」の説明を受け、危機感を強めています。この危機感は、道府県の農業大学校でも同じ受け止め方です。

幸いにして生活栄養科学科は、茨城県内の栄養士志向の高校生が多いために、定員に近い入学者が見込めますが、この背景には通学を認めた効果がありますが、遠隔地からの入学者が激減し、茨城県内出身者が大勢を占めるようになってきています。全寮制度を続けていたら、生活科学学生も激減したかもしれません。

学園の更なる抜本的改革に取り組みます

学生が来ない学校はいずれ潰れます。なんとしても学生が集まる学校に改革しなければなりません。

平成18年7月現在の在学学生数(全学生327名)

	1年生	2年生	3年生	4年生
農業経営科学科	43	48	51	64
生活栄養科学科	39	32	22	28
学年合計	82	80	73	92

ません。ここ数年行ってきた改善努力が無駄だった訳ではありませんが、もっと大がかりな、新たな視点からの改革が必要であると分かってきました。思い切った改革を進めていきますが、同窓生の皆さんからのご提案もお願いいたします。

学生募集にご協力ください

同窓会の役員の方々にはぜひぶんとご心配いただき、学生募集の広報活動を始めていただいております。感謝申し上げます。

鯉淵学園経営大賞の創設について

鯉淵学園同窓会 事務局長

九石 裕

今の時代はアカウントビリテーター、つまり説明責任が重要になってきています。行政や企業、団体等の活動を広くわかりやすく知らせることが求められています。また、今年5月に実施した同窓会各支部長あてのアンケート調査においても、鯉淵学園の存在がわからない農業関係の人が増えておりと回答する支部がいくつか出てきております。

一方、学園側においても農水省との予算折衝の中で、卒業生の活躍度がどうかの毎年のように求められております。世の中のキーワードの一つに成果と費用があります。教育はすぐに成果が出てくるものではありませんが、卒業者は地域農業のリーダー、農協運動の中心的担い手、あるいは食育関係の専門家としての役割を担う者が少なくありません。しかし、農業という地味な職業の関係もあり

全国の同窓生の皆さんにも、地域の方々に学園のご紹介をお願い致します。同窓生の皆さんの「推薦書」を入学願書に同封いただくと「優先入学」として抜く制度（願書様式）があります。ご連絡頂ければ書類をすぐにお送りしますので、現役の高校3年生、または意欲的な社会人青年に、鯉淵学園をご紹介いただきたいと切にお願いを申し上げます。

ますが、積極的なPRをしない小さな学校では認めてくれる人が限られます。そこで、「実績に勝るものなし」の格言で次の開催要領による鯉淵学園経営大賞を実施することになりました。

同窓会常任委員会、学園教授会において検討後、学園と同窓会の共催事業として取組み18年、19年の2カ年の継続事業とし、初年度はヤング部門、次年度は大賞部門が実施されます。来年は応募作品を収録した成果集の発行、優秀者を招聘したシンポジウムを開催する予定です。実施にあたっては、全国段階の賞に押し上げようと、会長を先頭にスポンサー探しに向き、農協連合組織や新聞社に協賛団体あるいは審査員として参加いただく予定です。すでに日本農業新聞社とJA茨城県連が参加を表明いただいております。

応募方法は自薦、他薦の両方が可能です。申し込みは各支部長あてにお願いしたいと思えます。大賞部門はこれからも応募が可能ですから多くの参加をお待ちしております。

鯉洲学園農業経営大賞実施要領

(Aの関係で一部)

1、目的

全国的な成果をあげている鯉洲学園卒業生の農業経営の優れた業績をはじめ、農、食、環境など顕著な研究事例を内外にアピールし、広く農業の発展に寄与すると同時に卒業生の連携強化の一環とする。

2、主催

鯉洲学園農業栄養専門学校
鯉洲学園同窓会

3、実施時期

平成18年7月～平成19年12月末日

18年度ヤング部門実施

19年度経営大賞部門実施

4、応募期間

18年度ヤング部門

平成18年8月～9月

19年度経営大賞部門

平成19年6月～7月

5、実施内容

(1) ヤング部門

発展期にあり将来が囑望される内容であること。39歳までの者。

(2) 農業経営賞

個人・法人経営で内容が優れており、その発展が期待できる経営であること。数値目安 農業所得1人あたり400万円

② デベロッパ賞

公務・団体・企業（食品・栄養含む）等所属組織において成果をおさめさらに今後の活躍が期待される者。

(2) 経営大賞部門

① 農業経営大賞

個人・法人経営で内容が特に優れており、その成果が地域の発展に結びついていること。数値目安 農業所得1人あたり650万円以上

② アグリビジネス賞

公務・団体・企業（食品・栄養含む）等に勤務務する者で成果が特に優れ、所属組織の活性化又は地域経済の発展に寄与していること。

6、実施方法

(1) 募集及び審査・表彰

① 募集方法（自推薦・他推薦は自由）は各都道府県支部長に依頼する。応募様式は別に定める。

② 審査・学園が委嘱した審査員による書類審査及び現地調査により各賞を決定する。

③ 審査結果報告・審査決果は速やかに本人及び各都道府県支部長に伝える。

④ 表彰・表彰は同窓会大会（19年11月開催予定）の席上において行う。

(2) 褒賞

ヤング部門

金賞（2本）
銀賞（4本）
銅賞（6本）

経営大賞部門

金賞（2本）
銀賞（4本）
銅賞（6本）

7、予算

同窓会予算及び団体・企業スポンサーを募集してまかなう。

8、その他
2年間の実施後、同窓会大会（平成19年）にシンポジウムを組み入れ、

第27回同窓会大会報告

第27回同窓会大会は、11月12日、鯉洲学園三号教室棟で全国24の支部から57名の参加により開催された。



大会は、高橋会長から挨拶に併せて学園60周年記念事業寄付支援のお礼、目標募金達成への更なるお願い、提案された議案について充分ご審議をいただく旨の挨拶があった。引き続き来賓の農民教育協会安橋隆雄理事長から60周年記念事業寄付支援による直売所オープン、学生募集、卒業後の進路幹旋のお礼等祝辞があった。井上隆弘学園長からは、同窓会支部会、常任委員会参加のお礼、学園の近況について、①学校名変更による教育方法について、②新資格取得新設状況について、③60周年記念事業直売所建設オープンへのお礼、同窓会

優秀者を招いた報告の場を設ける。また、あわせて応募レポート集を作成する。

これ以外は細則に定める。

活動に対する期待と祝辞を賜った。

大会人事

次の方々を選任、任命する。

以下、敬称略

議長選任

野原小右二（11期）茨城支部

議事録署名人

田所 守（9期）

入江三弥子（29期）

書記

佐藤 利文（45期）

秋葉 勝矢（46期）

審議事項

1、第1号議案 平成16年・17年度事業報告並びに決算の承認について執行部からの提案説明、梅崎監事（13期）から監査報告の後審議にはいり、質疑応答の上、承認された。なお、同窓会事務局会計、庶務について学園と協議を行い、学園業務に於いて同窓会業務担当者を定め業務を行う事とし、経費については事務局費で処理し、新たに勘定科目「事務委託費」を設定した。事務手続きの円滑化、組織強化の一環とし理解を得た。

2、第2号議案

平成18・19年度事業計画並びに予算について、従来の組織強化策の継続、学園への協力とし、



①学生募集、②卒業後の進路幹旋、③試験研究に対する支援の継続、学園60周年記念事業の募金継続、インターネット同窓会ホームページ活用、組織改善による支部強化、会報発行年1回とし支出削減、分収林管理と活用など、質疑応答の上、承認された。予算は、別掲「平成18・19年度予算書」とおりであるが、一部箇所修正後、

提示することで了解を得た。

役員選出

役員推薦委員会を設置し、協議を行った。推薦委員会を代表して、住吉事務局長から推薦会議の結果を受け、新役員が推薦され、満場一致で承認された。新会長 須田哲也氏（16期）の就任が決定のほか、18・19年度の新役員が承認され、新会長の挨拶がなされた。

なお、同窓会会則第16条に基づき、前鯉淵学園同窓会長高橋隆三氏、農民教育協会理事長安橋隆雄氏、農民教育協会常務理事学園長井上隆弘氏には、同窓会顧問をお願いし承認を得た。

懇親会

大会終了後茨城町にあるひぬま荘へ移動、一泊でおこなわれ大会参加者、協会理事、学園職員による情報交換、活発な意見交換などが夜を惜しんでおこなわれた。

学生募集への協力強化について

同窓会会長 須田 哲也

1、趣 旨
鯉淵学園の運営については、学生確保など厳しい状況下にある。これには学園の在り方など抜本的な改革以外には解決の決め手はないと思われる。

現在、学園当局は学生確保のため全国の高校など東奔西走しているが、十分期待できる状況とはなっていない。よって、学園同窓会として学園の抜本

的改革などを提起しつつ、それまでの間の緊急措置として学生確保への取り組みを強化して進めるものとする。

2、学生募集確保の取り組み方

(一) 学生確保の目標
学園同窓会組織の全国ネットを挙げ、学生確保への協力強化をはかる。募集確保の取り組みは、都道府県支

部及び本部ごとに学生確保の目標を設定の上、その必達を目指して進める。本、支部の目標

①都道府県支部 管内から若干名
②本部 全国から若干名
総数目標は50名とし、最低限25名の確保を目指して進めるものとする。

(2) 取り組みの具体的な進め方

同窓会の本、支部役員が中心となつて、優れた学生の確保を目指して管内の高校をはじめ農業関係の職場など訪問のうえ、応募者の確保にあたるものとする。尚、役員には学園特別広報委員として学園から委嘱のうえ、身分などを明確にする。
学生募集に関する必要資料を本部から送付する。

関係資料

- ・ 鯉淵学園特別広報推進委員委嘱カード
- ・ 学生募集要領、パンフレット、学園紹介マニュアルなど
- ・ 最近の管内に於ける入学高校の一覧
- ・ 学園同窓会（本、支部）の推薦書（優先入学要領に添付の推薦書を使用）他
- ・ 役員の高校訪問等の結果処理については、同窓会本部宛に復命書にてご報告頂き、その旅費等は学園より追って実費弁償をする。

(3) 取り組みの期限

第一次 十九年一月十二日
第二次 十九年三月十六日

○組織活動及び財政運営の強化方策 ○学園の在り方及びその方策を巡る検討

同窓会では去る5月の常任委員会から協議を継続し、都道府県支部長及び卒期別代表あてに同窓会の「組織活動及び財政運営の強化方策（案）」並びに同窓会としての「学園の在り方及びその方策を巡る協議検討について」会員の組織協（討）議をお願いしています。

支部の役員会、総会や同期の集いなどで十分に活発な協議のうえ、11月末までに意見集約を頂きますようお願いを致します。

常任委員会では引き続き協議し、その具体化のうえ、成案などを整備して参り

ます。
以下、組織協（討）議案について掲載致します。

鯉淵学園同窓会の組織活動及び財政運営の強化方策について

1、方 針

このたびの同窓会組織活動及び財政運営の強化に関するアンケート集約結果に基づき、組織・財政の実態を吟味分析の上、同窓会本部の強化方策について見直

しし、整備していく事とする。

このため強化方策は役員会・常任委員会等で十分審議し、協議の上決定する。尚、これらの中で直ちに整備し実行できるものは役員会等で協議し、その都度実施に移していくものとする。

2、方策の主な整備事項

(1) 都道府県支部の組織活動の強化について

① 支部規約の整備について
規約は組織運営の規範であり、各支部ごとに支部規約を整備の上備置する。

このため、支部規約のモデル例や他事例などを配布する。

② 役員会・総会の開催励行について
役員会（三役会議など）を毎年少なくとも1〜2回の開催を励行するようにする。また、総会は必ず定期的な開催を励行する。

③ 役員を選任と分担について
役員は少なくとも二役は置く事とし、役員の分担を明確にする。また、役員構成には卒期の若齢層などを含む年齢間の均衡にも配慮する。尚、役員（二役）名は本部にも報告を得るものとする。

④ 本部役員の参画について
本部役員（三役または常任委員）は、支部総会等に可能な限り参画の上、同窓会事業の報告、また組織強化に関する協議など促進をはかる。

(2) 都道府県支部の財政運営の強化について

① 支部会費制について
会費額の多少に拘わらず実情に応じ

て整備する。

② 本部交付金について
本部からの交付金方式について検討する。

会員の会費納入額（率）の引き上げなど要素として検討する。

(3) 都道府県支部間のブロック運営の整備について

① 会員数の少ない支部で、単独の集いなど難しい支部などについては、近隣の支部間でブロックを設け、共同運営を促進し整備する。また、支部会員数の多少に拘わらずブロック運営を行う支部は、その必要に応じてブロック内で協議のうえ進める事とする。

② 本部規約にブロック運営についての規定を検討する。

(4) 本部の組織活動及び財政運営の強化について

① 若年層会員の参画促進について
本支部を問わず同窓会活動の全般を通じて若年層会員の参画が少なく、その理由などを吟味の上、若年会員の積極的な参画についてどうすべきか、十分検討する。

② 卒期別の体制整備について
同窓会活動の強化のためには、支部体制とともに卒期別体制がキーワードとなっており、卒期別との拘わりをどうすべきか検討する。

・卒期別の役員（幹事）は、一般に卒期の集い開催のみの役割とみられる。同窓会組織として、卒期別の恒常的な役員（責任）体制など設けられないか検討する。この場合、本・支部規約の規定化についても検討する。

・卒期別同期会には、本部役員や常任委員等もできる限り参画の上、同窓会事業活動の報告など理解に努め、組織の強化策について促進する。

③ 本部会報の発行、編集の見直し整備について検討する。

・会報発行は現行の年1回を2回に増やす。しかし財政の限界もあることから、2回目は会費納入者に限定して送付してはどうか。

・編集、記事内容については、サイズ、枚数及び紙面の構成、文章の長短などどうするか。

・卒業生の活躍ぶり、若い会員に関する記事の掲載などの重視。

・会費や募金掲載の取り扱い等の検討について。

・会報への広告やその他収入について得られるか。

・紙材（質）、配送方法、その他経費削減などについて。

④ 本部財政確立、会費納入徹底について
・会費納入率向上策について十分検討する。

本部、支部からの依頼通知

※通知後に未納者へ直接の電話フォローが効果的であるがどこまでできるか。

・卒期別に若年層など納入連絡が徹底できないか。

・会費の額や徴収方法などは妥当かどうか。

・直売所の還元収入など得られるか。

(5) 学園運営と同窓会の役割（責任）等について。（略）

鯉淵学園の在り方及びその方策化を巡る協議検討について

1、趣旨

鯉淵学園は創立60周年の節目を迎えたが、今日の内外情勢の激変、即ち日本農業の依然としての停滞や急速な少子化の進行と学生の確保難、進路確保など、学園運営における多くの課題を生じつつその解決に迫られている。しかし最近、世界的規模での食料逼迫、地球環境保全や農業の公益的機能の評価などから「農と食」への期待の高まりや多様な参入、チャレンジなども進んできている。

このような状況にあつて、鯉淵学園の歴史的な意義を踏まえ、更には時代の進展にふさわしい学園の役割や責任など、新たな展望を切り開くべく、その在り方、方策化などについて協議検討を進めるものとする。

2、協議検討の進め方

鯉淵学園はその特質からも学園と同窓会とが表裏一体の関係にある。更に同窓会組織は、全国津々浦々の同窓ネットを通じて学園の後援組織ともいえる。このために、同窓会として学園の在り方などを巡る協議検討は必要の都度、学園との協議連携うえ進める事とする。また、同窓会の協議検討や意見集約等は、常任委員会を中心に都道府県支部の協（討）議を踏まえ、可能な限り卒期別会議の協（討）議を含めて進める。

3、学園の現状と課題

(1) 鯉淵学園は創立以来、これまで日本農業と農村生活の改革・振興のため

に多年に亘って多くの優れた人材を育み、卒業生は社会のリーダーとして活躍している。

しかし今日、情勢は一変しつつ、学生の確保難、就職難をはじめ財政の逼迫や、施設の老朽化など厳しさの一面にある。

財政上も農水省の助成など毎年ごと削減されてきている。このままでは、学園の存亡の危機にあると云っても過言でない。

学園運営は新たな時代への再構築に迫られているといえる。

(2) 学園運営の生命線は、まず優れた学生の確保にあり、それに財政基盤の安定にある。近年の学園運営の停滞や学生の応募者減少と確保難等について、外的的な要因等の確なる把握研究の上、打開策を見出し出していく必要がある。

4、学園の新たな展望

今日、客観情勢として食糧、環境問題は人類生存への最大のテーマである。我が国の食糧自給の確率や途上国の食糧不足、農林業の環境保全機能など、教育・研究分野にとっても重要テーマといえる。学園はその歴史的役割を基礎に、これからの日本の「農と食」また環境教育など、唯一の中央教育機関となつて人材育成への責任を担うべく必要がある。これらを踏まえた学園の在り方や教育方針、カリキュラム編成など見直し整備が必要と考えられる。

また、学園の在り方など方策化は、現状の実態からして短期間では困難とみられ、確かなる将来方向を見据えつつ、当

面する改革方策及び、中長期的な本策など段階的に進めて行く必要がある。

5、学園の在り方、方策化について

※現状と課題を踏まえ、また応募者の選択市場での競争力強化にむけて、高所大所から、更に法令・制度の細部まで含む十分なる検討の上進める。(以下は項目の例示のみ)

(1) 中長期的な改革方策

① 現行の専門学校としての改革
教育方針や教育課程の見直し、資格取得の拡充、専門知識技能の向上など

② 農科系の単科大学への昇格
施設基準、人的基準のクリア

③ 一般大学への転換
経営主体を含む抜本的な改革整備

(2) 当面する改革方策

・ 入学定員を超える応募者の確保と入学選抜試験の実施

・ 財政運営の確立

① 学園の名称等の整備
ネーミングゲームによる魅力の創出など

② 教育方針、目標、課程の見直し
整備

③ 協同組合教育の拡充を含むなど
資格取得と基礎教育教科の整備
諸資格及び取得教科編成の見直し
など

④ 優れた学生の確保
全国的なより均衡のある確保など
同窓会の学生募集への協力強化を
含む

その他

途上国留学生教育の拡充など

支部・同期の動向

沖縄県

平成17年10月、全国の農業大学校等の長が一堂に会する「農業大学校協議会研究会」が那覇市で開催された折、学園から井上隆弘学園長、安藤義道元教授（現独立行政法人農業者大学校理事長）が、普及事業改革に伴う情報・意見交換に、普及員の同窓生を訪ねて下さいました。

文責：宮城明生（46期）



前列左より

喜久山守良^㉑
安藤義道教授
井上隆弘学園長
学園長夫人

後列左より

白玉敬子^㉒
山城政美^㉓
砂川栄良^㉔
正木虎夫^㉕
山城孝子^㉖
宮城明生^㉗

第4期生会

平成17年10月19日、第4期生会が茨城県水戸市「ホテルレイクビュー水戸」にて開催され、学園から井上学園長、國府田事務部長が出席されました。平成18年の4期生会は10月19日（木）・20日（金）の両日、神奈川県箱根町の木質温泉にて開催されます。



第13期生 出雲路の集い

2年に1度の第13期生会は、平成17年9月27日・28日の両日、島根県松江市の「玉造温泉ホテル玉泉」にて開催されました。幹事島根の石田、伊藤、前田、三浦(寺戸)君らのご尽力により、「神話のふるさと出雲路の集い」に至りました。

出席者は36名(同伴者6名)で記念撮影・懇親会へと移り、石田実行委員長より歓迎と経過等についてあり、その中で鯉淵学園卒業に当たっては、卒業証書ではなく、「証」であって、文面も「学業を習得したことを証明し、尚一層の精進を希望する。」とあり、従ってこれからも13期生はひたすら修行に励む事であると挨拶がありました。学園の近況は梅崎が報告、特に学生募集等をお願いしました。懇親会では時間の過ぎるのも忘れて語り合い、二次会も鯉淵での寮生活等に話が盛り上がり、楽しく過ごすことができました。

翌日は松江城見学等、バスの車窓より松江市内を眺めながら出雲大社へと向かい、13期生の健康と益々の精進を祈ってお祓いを受けました。

13期生会次回の開催地は、卒業50年を記念して茨城県で開催することを約束し散会しました。

文責：梅崎孝臣(茨城県)



第10期生会 奈良県にて開催

今回で8回目を迎える「10期生の集い」は、平成17年10月14日・15日の両日、古都・奈良の猿沢荘にて開催され、24名の出席でしたが賑やかな会となりました。今回は関西地区で担当のため、実行委員長を今井定彦氏(大阪)、事務局長を井上薫氏(奈良)にお願いし、昨年の東京に続く開催となりました。

会はず、今井委員長の古都・奈良の歴史に説き及んだ挨拶に始まり、15名の物故者へ黙祷を捧げた後、井上学園長よりご挨拶を兼ねて学園の近況、60周年記念事業の報告と共に、学生募集の協力を強く訴えられました。出席者全員からは各自の近況報告があり、お互い古希を過ぎたこともあって健康上の話題が多かったように思いますが、現役で活躍されている方も少なくなく、大いに励まされました。

尚、次回は東北地区(福島・会津)で計画頂く事になりました。

文責：加藤整(兵庫県)



写真：

- 一列目左より 浜本・藤原・寒川・井上学園長・小西
山口・波多野・三須
二列目左より
須田・奥野・福沢・市野沢・石郷岡・奥田・伊藤
三列目左より 鈴木・北岸・井上・今井・二瓶
四列目左より 駒井・加藤

岩手県支部

岩手県支部の17年度総会を10月29日、和賀郡湯田町「クアハウス東郷温泉」にて開催しました。

役員改選により、新支部長に菊池博美氏(19期)、副支部長に吉田孝市氏(19期)が就任しました。



写真：

- 前列左より
岩淵 斉⑮
高橋利清⑨
及川敬士⑨
高橋隆三
前同窓会長⑨
箱石 正④
三浦邦雄⑮
菊池博美⑮
中列左より
鈴木 實⑦
箱石和子⑨
加藤勝信⑭
芳賀正美⑭・菊池雄基⑮
後列左より 菅原 彰⑮・伊藤 稔⑮・千田由春⑮・吉田孝市⑮
熊谷達男⑬・佐々木一夫⑰・菊池貞三⑳・高橋敏夫⑪

第16期生会

平成17年11月7日・8日、将棋と温泉、そしてサクランボと並んでラ・フランスの産地で名高い山形県天童温泉「あづま荘」にて第16期生会が開催されました。

何十年ぶりに会った人は顔と名前が一致しないのか、名のりあうまではしばらく時間もかかりましたが、しかしそこは同じ釜の飯を食った仲間ですからすぐに再会を喜び合う事ができました。

懇親会に先立ち幹事から天童市及び天童温泉の紹介、また10月に他界された北海道の荒川仁氏の冥福を全員で祈りました。

懇親会は山形名物の芋煮とラ・フランス、ふじりんご、庄内柿などもならび、楽しい会が夜遅くまで続きました。

卒業して44年も経過した寮歌はスクラムを組み、酒の力を借り気合いを入れてもかなり音程がずれていましたが、2次会では見違えるような歌声と踊りまで飛び出し、大いに盛り上がりました。

翌日は慈覚大師円仁が開いたとされる立石寺、「閑さや岩にしみ入る蟬の声」の芭蕉句で有名な



写真：一列目左より
保科周三・中津秀明・吉田善幸
山口武・村上善明・森川紀一
走出栄八・石田善吾・宮城勝繁
二列目左より
保科夫人・中津夫人・吉田夫人
山口夫人・村上夫人・森川夫人
走出夫人・石田夫人・宮城夫人
三列め左より
斎藤隆・中村正光・図師健光
松野昭子・林喜枝・鈴木廣美
住谷里子・河村研二・須田哲也
四列目左より
前原敬・本池弘文・深山一雄

山寺を散策しました。また国の重要文化財である根本中堂を参拝し、全員で健康を祈願した後散会しました。

最後に、60代の後半にさしかかり現役を終えた年齢になりましたが、これから人生仕上げの時期を迎えます。それには何といても健康が第一です。鯉淵で鍛えた体力と気力で「あ、わが友よ握りたる、この手の温み忘れめや」の精神で互いに励まし合い、これからの人生を頑張りましょう。

文責：保科周三（山形県）

鯉淵学園60周年記念 近畿のつどい

平成17年11月19日～20日、近畿地区6府県支部（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）主催の「鯉淵学園60周年記念近畿のつどい」を神戸市内のパレス神戸で開催しました。来賓として井上学園長、須田同窓会長を招き、近畿地区同窓生47名が参加しました。

この近畿のつどいは10年ごとに開催しており、創立50周年にあたる今回は京都府で開催され、60周年の今回は兵庫県神戸市で開催いたしました。

当日の交流会では伊福実行委員長（4期・和歌山県）による開会挨拶のあと、近畿のつどい経過報告、各府県支部活動の現状報告と出席者紹介、実行委員紹介へと続き、来賓としてお招きした井上学園長からは学園の現状と方向のお話し、また須田同窓会長から



写真：一列目左より
田中②・伊藤③・井上⑩・竹村⑯・伊福④
井上学園長・須田同窓会長・高田①
藤井④・伊藤①
二列目左より 武田⑭・吉川⑮・岡井⑰
井口⑲・橋本⑥・堀端③・片山④・竹山④
川村⑲・成田⑰・養毛⑧・福井⑲
三列目左より 金田②・北島②・長峰⑯
南山③・尾阪⑮・滝川⑮・高田⑮・高木⑲
四列目左より 嶋田⑮・米山⑮・伊藤⑮
武田⑲・西田⑮・孝橋⑮・岡本⑮
五列目左より 柴田⑲・武久⑲・出店⑲
加藤⑩・駒井⑩・山川⑳・岡本⑳・加藤⑳

は同窓会報告がありました。

交流会の後懇親会に移り、同窓生は久しぶりの再会に当時の学生生活の思い出話や、最近の仕事のこと、健康状態や家族のことなどを語り合ったあと、寮歌斉唱と万歳三唱で締めくくり、再会を誓い合いました。

次回の近畿のつどいは、5年後に開催することになりました。

首都圏支部の集い

平成17年10月29日、東京の「南国酒家・原宿店」において首都圏支部の集いが開催されました。東京、千葉、埼玉、神奈川の一部三県より21名の参加者があり、東京都支部長の土方貞信氏（16期）が挨拶、各支部の活動状況や自己紹介などがあり、その後懇親会が行われました。



長野県支部役員総会

全国の同窓会会員の皆様、お元気で活躍中のこととお慶び申し上げます。長野県支部は茨城県に次ぐ大所帯の支部でございます。多いが故に全体の総会がなかなか開催できない状況です。そこで、2年毎に全体の総会または役員総会を開催し、同窓会本部の活動状況や支部の状況を報告するとともに、会員の親睦を深めております。

平成18年1月21日長野市に集合した役員により、平成16年～17年の事業報告並びに18年～19年度の役員改選が行われました。新支部長には14期の宮沢昭男氏が選任され、鯉淵学園の発展と同窓会会員の活躍を祈念して、力強く寮歌を歌いました。

文責：牛山喜文（23期）



前列左より 牛山喜文⑳・林 弘旦⑱・宮沢昭男⑭
落合壽美男⑦・小平 信⑧
後列左より 田中美和子㉓・下島公平㉒
池田陽子㉓・青木 敏⑳・平松昭二㉑

不知火会（熊本県支部）第57回総会

平成18年1月28日・29日、熊本県山鹿市山鹿温泉旅館「寿三」において、第57回総会が会員23名出席のもと開催されました。

総会で田上輝昭会長（21期）が鯉淵学園60周年記念樹として、熊本県を代表する肥後六花の一つ「肥後椿」を贈呈した旨の挨拶と報告があり、同窓会本部から出席いただいた住吉達男副会長から鯉淵学園や同窓会の現状と近況報告がありました。

総会に出席した不知火会の会員は懇親会の後、国指定重要文化財の芝居小屋「八千代座」で山鹿灯籠おどりや山鹿太鼓を鑑賞し、和傘がライトアップされた明治・大正レトロと、現代の山鹿温泉の魅力にあふれた街並みを散策しました。

翌日は「米米惣門ツアー」とした古き良き時代の思いをはせながら、山鹿の史跡巡りを体験し、まちづくりの視察をして再会を誓い合い散会しました。



写真：前列左より 吉丸⑭・合志⑳・井㉑・田上⑲
住吉⑰・河野㉑・橋口㉒・鳥居㉓
中列左より 吉田⑱・中村⑲・本田㉓・芹口⑤
後列左より 坂梨⑮・松本⑳・田端㉓・野満㉑・坂野⑮
井㉒・岩間㉑・原田⑱・東⑱・白石⑲

北海道日胆地区

平成18年2月18日・19日の両日、北海道日胆地区同窓会が洞爺湖温泉町洞爺観光ホテルにて開催されました。



前列左より 高田㉓・伊東⑱
美馬⑭・篠原⑱
菊池（特別参加）
中井㉓
後列左より 高松（特別参加）
高松⑱・菊池⑤
千葉㉑・小野⑱
涌井（鯉淵学園）
菅原㉑

秋田県南同窓の集い

隔年に行われている「鯉洲学園秋田県南同窓の集い」を開催しました。

今冬は48豪雪に次ぐ大雪となり、秋田県横手市地帯も例年にない雪との闘いでもありました。ようやく降雪も少なくなつて春の気配が漂う3月5日、「横手駅前温泉ゆうゆうプラザ」に11名が集いました。

懇親会に先立ち世話人代表の佐野和男氏（7期）より挨拶を兼ねた経過報告と、学園より送付された資料に基づき学園の近況報告があり、特に60周年記念事業のお願いと学生募集への協力等が報告されました。その後大高三之助氏（9期）の音頭により乾杯、懇親会へと入りま

した。担い手の育成確保、認定農業者、集落営農化等の課題として、集落の組織化やリーダー育成、経理担当者養成等が話題となりました。そして今後は鯉洲学園卒業者に新しい資格が授与される「高度専門士」として、村落営農発展への活躍が大いに期待されるものと思ひます。

今後は若い世代が多く参加できる集いにするための対策が必要との意見もあり、卒業生が活躍している現況視察を兼ねた集いなども企画し、同窓生の絆を温めて参りたいと思ひます。最後に鯉洲学園と同窓会の益々の発展を祈念して散会しました。



写真：前列左より

武藤恒美⑭・大高三之助⑨・佐野和男⑦
渡部 茂⑨・佐藤忠道氏⑳

後列左より

小川一見⑲・真崎修平⑳・鈴木みよ子㉑
齋藤峰子㉒・川村正孝㉓・西田貞夫⑭

岡山県支部

平成18年5月13日、岡山市駅元町の「まつのき亭」において、岡山県支部総会を開催しました。役員改選を行い、新役員が決定致しました。

支部長	竹内邦弘	18期	新任
副支部長	平田精一	24期	新任
副支部長	池田政廣	23期	留任
代表幹事	桑村 憲	46期	留任

鯉洲学園同窓会岡山県支部

2006.5.13

まつのき亭



写真：前列左より

平田精一⑭
清野弘治⑮
竹内邦弘⑯
藤原只巧⑩
池田政廣㉑

後列左より

竹内邦幸⑰
山崎恵子㉒
藤本 実⑱
江見耕志⑲
桑村 憲⑱

静岡県支部

平成18年8月27日に、静岡県支部同窓会を開催しました。話はずみ、時間が過ぎるのを忘れるほどでした。今後も同窓の絆を強くするためには、それぞれに声をかけ、参加者を多くする事が大事であると思ひます。



九州県人会に57名が参集!!

鯉淵学園同窓会九州県人会を平成18年8月19日・20日に熊本市のユースピア熊本で、九州各県(福岡・佐賀・長崎・大分・熊本・宮崎・鹿児島・山口)から57名が参集し、近況を報告しながら新たな情報交換の場となり、親睦を深め、鯉淵の絆の輪が一層強くなる事を目的で開催しました。

会では先ず物故者への黙祷をし、主催者を代表して熊本県支部長の田上輝昭氏(21期)が挨拶、来賓として出席頂いた井上隆弘学園長、須田哲也同窓会長より祝辞を賜りました。

協議では各県の支部活動報告や、学園並びに同窓会の近況報告があり、学生募集の協力、直売所開設などの報告がありました。

懇親会は金 敏輔氏(8期)の挨拶、原口豊治氏(8期)の乾杯で始まり、郷土への思いを馳せて話に花を咲かせ、一層鯉淵の絆の輪を広げることができました。また、民謡歌手による熊本県民謡などの披露で会を盛り上げ、最後は全員で輪になって肩を組



写真:

前列左より

吉田(14期)・日高(10期)・芹口(5期)
金高(8期)・田上(21期)・井上学園長
須田同窓会長・原口(8期)・平川(15期)
前田(26期)・尾石(12期)・平原(10期)
中村(19期)
2列目左より
鳥居(23期)・佐藤(28期)・伊藤(27期)
井(27期)・森友(15期)・川崎(6期)
河野(27期)・中迎(18期)・松野(16期)
折田(24期)・野上(25期)・森川(16期)
加茂(11期)・吉森(24期)・中尾(24期)

3列目左より

重(26期)・平野(24期)・下小園(27期)
古賀(27期)・中野(11期)・合志(22期)
溝口(19期)・尾崎(19期)・石橋(20期)
篠原(20期)・甲斐(21期)・坂口(23期)
高宗(34期)・高橋(32期)・橋口(32期)
坂野(35期)
後列左より
野満(27期)・那須(43期)・段田(22期)
川元(24期)・甲斐(26期)・鳥原(26期)
佐々木(15期)・東(19期)・白石(21期)
岩間(29期)・田端(28期)・吉丸(24期)
井(26期)

み、寮歌を熱唱し、尾石正忠氏(12期)の一本締めで一日目を終えました。

二日目は阿蘇観光と農業視察に向かい、阿蘇山噴火口や山鹿牧場、うぶやま牧場、池山水源等を見学視察後、井晴生(26期)・芳美(27期)夫妻の母上が経営する民宿「太平の上」にて昼食を摂り解散しました。

尚、次回の九州県人会は佐賀県にて数年後に開催の予定です。

九州県人会事務局

鳥居 憲太郎(23期)

高橋由一氏(22期)岩手県金ヶ崎町長選挙に当選

高橋由一氏は、全共連岩手県副本部長、金ヶ崎町助役を経て、去る3月12日に行われた同町町長選挙にて無所属で出馬、見事当選を果たされました。

情報提供: 守屋 高雄氏(3期)

2期4組の文集作成される

2期4組の文集「一期一会の絆」の続編として昨春秋、金田裕章氏(京都)編纂による「一筆啓上仕る」遙かなる友へ

寄贈

熊本県支部より、鯉淵学園創立60周年の節目として記念樹(肥後椿)が贈呈され、3月15日の平成17年度卒業式当日、須田同窓会長、井上学園長以下関係職員により、創立五十周年記念事業で建築した図書館横にて植樹式が行われました。

肥後椿は熊本県を代表する肥後六花(椿・菊・朝顔・菖蒲・サザンカ・シャクヤク)の一つだそうです。



の便り」が作成されました。この文集は文筆や写真により相互交換し、鯉淵の仲間の存在を再確認しつつ新たなコミュニケーションの道を試みようというものです。

追 悼

つつしんでご冥福をお祈りします。

茨城県支部 及川 博 (9期) 平成17年1月 逝去	大阪府支部 石郷岡康男 (10期) 平成18年1月 逝去
兵庫県支部 浅田 達夫 (通4) 平成17年3月 逝去	秋田県支部 伊藤清之助 (8期) 平成18年 逝去
熊本県支部 安達 雅晴 (20期) 平成17年5月 逝去	栃木県支部 湯沢 隆夫 (1期) 平成18年4月 逝去
鳥取県支部 増井 寿美 (通4) 平成17年7月 逝去	群馬県支部 飯島金次郎 (3期) 平成18年4月 逝去
岩手県支部 五嶋 隆俊 (9期) 平成17年12月 逝去	学園元教授 宮島 三男 平成18年2月 逝去
岩手県支部 那須野 章 (5期) 平成17年12月 逝去	

同窓生の方で、逝去された方がおられましたら、葉書などの書面により、同窓会事務局までお知らせ下さい。

転居先が不明となっている会員の方のリストです。情報をお寄せ下さい。

同窓会事務局 Tel. 029-259-2811

※平成14年10月発行の同窓会会員名簿より

都道府県	卒期	氏 名	都道府県	卒期	氏 名	都道府県	卒期	氏 名	都道府県	卒期	氏 名				
北海道	20	佐藤 健一	福 島	52	塚原 良子	千 葉	46	中野 稔浩	兵 庫	24	菅原 正則				
	20	中田 勝子		美7	赤井 幸一		東 京	7		吉田 辰夫	奈 良	54	熊谷 隆		
	18	中井 正明		茨 城	9			吉岡 一男		19	池間 茂雄	和歌山	23	鈴木 隆文	
	41	斎藤 一雄			30			高塚 厚子		38	足立 説子	広 島	34	後藤 絹子	
	37	長濱 修			41			浜田 郁男		56	福沢留委子	鳥 取	17	西木 剛史	
	43	吉田美穂子			43			市野沢賢一		51	横山 嘉徳	通5	長ヶ原雄紀		
	44	狩野 康弘			46			佐藤由紀子		52	寶代 三嗣		島 根	20	川上 蘆求
	53	宿谷 貴博			49			佐藤 桂子		42	番 三千郎	52	長嶺 友和		
	49	服部さつき			51			稲葉 素久		神奈川	10	竹内 弘	山 口	10	松本 清己
	49	小澤田砂織			51			久保田友子			41	大塚 宏樹	22	国行 佐敏	
	49	結城 律子			51			増田 峰明			45	落合 直美	愛 媛	48	清野 幹史
	45	宮上紀代美			54			内野 明仁			47	笹島 竜生	48	清野 麻美	
	5	紺野 浩			55			飯塚 伸広			55	林 純子	高 知	9	渡会 武久
青 森	33	三浦 忠行	54		松本 照美	新 潟		2	北条 定喜		福 岡	55	北川満理子		
	岩 手	28	上原 真美		55		千葉 美香	36	瀬戸 一久		長 崎	選36	野中 秀則		
28		宮崎 大平	55	英 和男	35		青山 隆博	33	鬼丸 直美						
宮 城	29	我妻 祐子	栃 木	42	飯島めぐみ	通4	北村 剛	熊 本	31		堀 浩一郎				
	49	星 裕俊		45	関根 博子	石 川	31		井筒 弘美		44	宮崎 真寿			
秋 田	7	原田 耕造		群 馬	49	増戸 裕幸	福 井	42	前田 敏弘		大 分	27	河野 光雄		
	55	中野 正紀			埼 玉	26	小野原菊男	45	松下ひろみ		宮 崎	22	峰 静二		
	40	岩波 卯子				49	高橋 和一	長 野	36		三石 照美	鹿 児 島	14	外西 俊行	
山 形	通4	永井 啓治		44		八巻 俊子	39		関 弘	31	久木田雅子				
	58	原田奈穂子		53	進藤 海太	55	加藤 善正		48	原田 晃生					
	50	鈴木 邦人		千 葉	24	渡辺まち子	静 岡	52	東 美紀子	沖 縄	39	仲梶 満一			
福 島	15	前田 幸徳			39	福島 幸一		愛 知	31		伊藤 修	40	城間 周宏		
	28	独鈷 稔			55	古畑 平		京 都	51		城代 由里	56	當真可奈枝		
	43	佐藤 美季			55	関根 理恵	大 阪	3	福永 和平						
	44	三浦 珠美			55	小峰 敦		55	中島 基						

会費及び寄付金納入者名簿〔報告〕

終身会費

平成17年9月1日

平成18年8月31日

北海道 栗本 幹夫

秋田 田中 達郎

宮城 齊藤 峰子

山形 大内 一也

福島 北山 利三

栃木 油井 康彦

群馬 高久 桂子

茨城 野口真理子

東京 蜂須賀信也

茨城 蜂須賀まゆみ

東京 宮下 俊文

茨城 鶴田千代子

茨城 中村 信夫

茨城 広瀬美智子

茨城 館洞久美子

茨城 西村 勝夫

茨城 平塚 保裕

茨城 中山 基

茨城 飯田 良子

茨城 中島 佳三

茨城 深作 昌代

茨城 岩田 則子

茨城 大槻 高裕

茨城 大内 清美

茨城 小島 金吾

茨城 小嶋 敬太

茨城 日向 道治

茨城 飯塚ひろ子

茨城 小川 高穂

福井 前田 明香

滋賀 上田 友美

京都 依田 朋之

鳥取 木原 睦子

島根 渡邊 康雄

宮崎 勝部 喜政

熊本 高坂 宣栄

熊本 中村 眞輔

鹿嶋 篠原 滋

鹿嶋 小田 達彦

鹿嶋 高松 憲章

鹿嶋 砂川 久子

鹿嶋 久子

鹿嶋 憲章

鹿嶋 達彦

鹿嶋 憲章

鹿嶋 達彦

鹿嶋 憲章

鹿嶋 達彦

鹿嶋 憲章

鹿嶋 達彦

鹿嶋 憲章

鹿嶋 達彦

鹿嶋 憲章

鹿嶋 達彦

鹿嶋 憲章

鹿嶋 達彦

鹿嶋 憲章

鹿嶋 達彦

鹿嶋 憲章

鹿嶋 達彦

鹿嶋 憲章

鹿嶋 達彦

鹿嶋 憲章

鹿嶋 達彦

終身会費納入区分表 平成18年度

卒業後経過年数	金額(円)	期別
1~5年	40,000	55期~59期
6~10年	37,500	50期~54期
11~15年	35,000	45期~49期
16~20年	32,500	40期~44期
21~25年	30,000	35期~39期
26~30年	27,500	30期~34期
31~35年	25,000	25期~29期
36~	22,500	1期~24期

年会費

平成17年9月1日

平成18年8月31日

14~19年度分

長野 正治

●16~17年度分

北海道 沖田 清次

北海道 阿部 孝

北海道 高瀬 正美

茨城 谷沢 治

茨城 岡井 明美

京都 井上 芳子

兵庫 近本 恭介

広島 谷川 法之

鹿嶋 江崎 光守

北海道 山崎 政治

北海道 窪田喜代衛

長野 上野 進

京都 山口 幸裕

京都 山田 絹代

大阪 正木 浩二

大阪 加藤 整

兵庫 出店 利彦

兵庫 高木 経吉

兵庫 田中 義治

兵庫 長尾 輝夫

兵庫 吉川千鶴子

兵庫 西田 博

兵庫 孝橋 利己

兵庫 武久 正篤

兵庫 橋本 篤

兵庫 山川 和也

兵庫 近本 昌博

兵庫 武田 憲人

兵庫 金城 正春

兵庫 金城 正春

兵庫 金城 正春

兵庫 金城 正春

兵庫 金城 正春

兵庫 金城 正春

兵庫 金城 正春

兵庫 金城 正春

●17~18年度分

秋田 佐野 和男

秋田 西田 貞夫

宮城 遠藤 正直

宮城 高橋 文男

宮城 中鉢 英昭

愛知 小川 末吉

長野 五十川 渡

京都 吉崎 篤子

香川 仙波 岩己

山口 段田 恭範

秋田 佐藤 和也

秋田 佐々木登守賢

宮城 千葉 芳経

山形 植松 明奈

新潟 天井美穂子

新潟 増田 菜美

埼玉 加藤 昭

愛知 矢崎 深志

長野 原 あずみ

滋賀 池田 勝紀

京都 山下 重治

大阪 喜入佳奈子

鹿嶋 鮫島 綾子

北海道 梅木 亀男

北海道 松本 光男

北海道 田村 幸三

北海道 佐藤 節夫

北海道 田村 信一

北海道 田村 信一

北海道 田村 信一

北海道 田村 信一

北海道 田村 信一

北海道 田村 信一

北海道 田村 信一

北海道 田村 信一

北海道 田村 信一

岩手 猿舘 敬三

山形 横山 富弥

福島 高木 敏光

群馬 田村 孝司

茨城 阿久沢公一

茨城 太田 幸子

茨城 入江 龍一

茨城 入江 三弥子

埼玉 松本 実

埼玉 植木 清治

埼玉 三浦 清登

千葉 菅谷 初夫

千葉 服部 政明

千葉 高橋 篤

新潟 小林 敏雄

新潟 角山 優子

新潟 吉原ふじ子

愛知 伊藤 明男

愛知 鈴木 文規

滋賀 立上 清

広島 桑原 謹二

島根 橋本 正道

大阪 石田 義文

大阪 荒木 秋男

大阪 高橋 泰之

山口 藤田 司朗

山口 神出 登

山口 森繁 昭

長崎 丹羽 新吉

長崎 尾崎 原喜

長崎 池間 景清

沖縄 前田 充徳

沖縄 前田 充徳

沖縄 前田 充徳

沖縄 前田 充徳

沖縄 前田 充徳

沖縄 前田 充徳

同窓会寄付金

平成17年9月1日

平成18年8月31日

栃木 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

茨城 大川 鐘一

公益法人寄付金
(実証研究寄付金)
平成17年9月1日
平成18年8月31日

同窓会大会出席者一同
北海道日高肝振地区10名
九州県人会鹿児島出席者9名
学園職員
井上 隆弘
山本 英治
杉山 博茂
涌井 義郎
入江三弥子
及川 隆光
藤澤 一郎
廣木 政昭
井上 洋一

11月4日(土)、5日(日)に第61回学園祭が開催されます

学園祭実行委員長 益子 泰卓 (農業経営科学科 2年 茨城県出身)

私は、第61回鯉淵学園学園祭の実行委員長をしており
ます。茨城県出身の益子と申します。学園祭は昨年より、
11月の第1土曜日、日曜日に開催することになり今年は
文化の日続く4、5日に開催されます。

今年の学園祭のテーマは「61億分のKOIBUCHI」です。
世界の全人口は約60億人ですが、61回の学園祭ですので
“61億分の～”としました。「世界の中でこの鯉淵学園が
「どういった働きをすべきか」「私たちは何をすべきか」
という事を見直してみたい」という気持ちを込めて
テーマにしました。

昨年から、鯉淵学園の広大なキャンパスを来場者の皆
さんが十分にまわって見られるような配置にしました。
今年も来場された皆さんに私たちの鯉淵学園を十分に
見て頂いて“来て良かった”っと思えるような学園祭を創
りあげたいと思います。

昨年同様に、「研究室の展示コンテスト」を行います。
「研究室の展示コンテスト」は、各研究室がどんな活動・
研究をしているのかをポスター等の展示で皆さんにわ
かって頂く企画です。コアタイムには、各展示について
研究室所属の学生がプレゼンテーションをします。昨年
は来場者の方の厳しい質問に答えられない場面もあつた
ようですが、今年は3、4年生中心に充分準備をしてい
ます。

その他、恒例の模擬店、模擬店では、毎年好評の“沖
縄そば”の他、学生の出身地の名産を活かした模擬店も
多く出店します。全国農産物展示即売会も行いますので、
みなさまからもご協力をお願いします。

必ず成功させたいと思います。先輩方も是非いらして
ください。

よろしくお願ひします!!

学園新スタッフの自己紹介

①役職 ②主な担当 ③出身地

九石 裕

①教授 ②チャレンジファームスクール
(農業短期研修) ③栃木県(23期)



国内の農業自
給率は40%台と、
先進国の中では
最も低い現状に
あります。国民
が安全、安心の
食料を手に入れ

るには優れた担い手の育成と、それを支
援する仕組み作りを急がねばならない
と考えています。広い視野と青年の友情
を培うには鯉淵学園が一番だと確信して
います。
経済や農業界もグローバル化が進んで
います。国際交流を進め、世界に情報を
発信できる学生、青年を増やすことに貢
献できたら最高です。

関根 俊彦

①講師(実習専任) ②露地野菜 ③兵庫県



今年度から学園
の農場部作物・園
芸課に配属されま
した関根俊彦で
す。今年の1月ま
で青年海外協力隊
の野菜隊員とし

て、南米のパラグアイ共和国に2年6ヶ月
間派遣されておりました。農業の楽しさ、
難しさと奥の深さを実感し、また、様々な
人とのつながりを以前よりも感じるよう
になりました。

これらの体験をしっかりと生かし、精進
を続けて鯉淵学園の教育活動に貢献し、学
生が貴重な学園生活を送る事ができるよう
努力していきたいと思っております。どう
ぞよろしくお願ひ致します。

大内 公貴

①助手(実習専任) ②畜産加工課・肉畜係 ③茨城県



大学では乳製品
加工を専門に行っ
ていました。卒業
後は青年海外協力
隊員として、中米
のホンデユラスに
2年間行き、職業
訓練学校にて食品

の製造技術を伝授してきました。帰国後は
教員免許をいかし、北海道の高等学校に勤
務して食品製造に携わってきました。
今年度から学園の肉畜係として勤務する
ようになり、今まで触れたことのない分野
に悪戦苦闘しています。こんな私ですが、
今年一年新入生共々成長して行きたい所存
です。どうぞご指導ご鞭撻の程よろしくお
願ひ致します

小沼 博美

①嘱託助手 ②生活栄養科学科 ③茨城県(58期)



社会人学生と
して4年間学び、
昨年度学園の生活
栄養科学科を卒
業しました。担
当は、調理学実
習・栄養指導論

実習や栄養管理情報システムなどの講義
の準備をしています。
鯉淵学園には学生寮や学生自治会、学
生食堂といった学園ならではのものがあ
ります。専門的な知識を学ぶだけでなく、
日々の生活の中で身をもって多くの体験
ができる環境にある学園の良さを学生に
伝えるお手伝いをさせていただきます。
よろしくお願ひ致します。

安藤 賢相

- ①主事補
- ②チャレンジファームスクール（農業短期研修）
- ③秋田県（58期）



研修部職員として迎えて頂いた安藤です。今年の3月末まで茨城県農業総合センターで一年間ではありませんが、研究助手として勤務させて頂きました。総合センターでは研究所の方から技術向上への姿勢、若き普及所職員の農業への高き水準での眼差し等、私の農への取り組み方に大きく影響を与えて頂きました。農の技術を生み、育み伝える。私が触れることの出来た体験が生徒達の選択肢増加に繋がれば本望です。私自身これから勉強する事が沢山あり、指導に欠ける点が多々あるとは思いますが、先輩方のご指導のもと頑張りたいと思っております。

高坂 宣栄



- ①主事補
- ②施設野菜
- ③宮崎県（59期）

今年度からは職員として勤務させて頂き、今年度から嬉しく思っています。4年間学んだことを一つでも多く学生達に伝えていければと思います。また、学生に伝えながら自分自身も成長したいと思っております。

小多田 秀次

- ①主事補
- ②畜産加工課酪農係
- ③宮崎県（58期）



鯉淵学園の58期卒業で、卒業後は栃木県にある自由学園の農場に勤務し、今年4月より母校鯉淵学園の農場に勤務することになりました。1年間酪農の現場で働いたとはいえ、それぞれの現場でそれぞれのやりかたがあり、現在は鯉淵学園の方法に対応出来るよう頑張っています。畜産の仕事、学生の指導等にも頑張っていけますのでよろしくお願致します。

天井 美穂子

- ①主事補
- ②実務経験栄養士
- ③新潟県（59期）



3月までは学生として鯉淵学園に在籍しましたが、4月からは職員として新たな一歩をこの学園で迎えることができ、とても嬉しく思っています。学生と職員は違うので、その自覚を持って1年間実務研修生として食堂でしっかり学び、これからの栄養士人生につなげていきたいと思えます。まだ慣れていない、失敗をすることも多々ありますが、一生懸命頑張っていけますので、ご指導よろしくお願致します。

石部 愛美

- ①主事補
- ②実務経験栄養士
- ③茨城県（59期）



実務経験栄養士制度は、栄養士としての仕事を身につけることが出来ると共に、管理栄養士の国家試験を勉強するのに十分な時間が与えられています。私はこの環境を活かし、仕事と勉強の両立をしていきたいと思っております。また、食堂は様々な情報が入りやすい場でもあるので、新しい情報に元々勉強に専念していきたいです。一年間と期限が限られていますが、この一年を通して沢山の事を吸収し、一年後栄養士としてスムーズに働けるよう気を引き締めて取り組んでいきたいです。

亀田 ミサコ

- ①主事補
- ②実務経験栄養士
- ③千葉県（59期）



私はこの鯉淵学園の学生食堂で、四年間学業の苦業の傍らアルバイトをしてきました。ここでなら経験を生かし、さらに知識を深め勉強できると思い、実務を積むことを決めました。栄養士とはとても責任ある立場だと思いますし、簡単な仕事ではありません。だからこそとてもやり甲斐のある仕事だと思っています。一年はあっという間ですが、出来るだけ多くのことを学び、吸収し成長していきたいです。来年の春には無事に実務経験を終え、国家試験に臨めるよう頑張りたいと思っておりますので、ご指導よろしくお願致します。

鴨志田 幸

- ①主事補
- ②実務経験栄養士
- ③茨城県（59期）



私は国家資格である管理栄養士の取得を目指しています。受験資格に必要な一年間の実務経験を鯉淵学園でさせて頂いたことになり、実際の給食施設の仕事を体験しながら勉強をしています。学生食堂での調理の経験や、学生への食物に関する情報提供などの業務をし、学生に満足してもらえようという運営に携わって行きたいと思っています。また、一年後には鯉淵学園での経験を次の仕事への糧として、幅の広い分野での仕事に就きたいと思っています。

松原 恵理子

- ①主事補
- ②実務経験栄養士
- ③山口県（59期）



今年の3月までは学生としてこの学園で生活を送っていましたが、4月からは実務経験栄養士として勤務させて頂きました。今までと違い社会人として責任ある行動をとり、多くの事を学びながら日々精進したいと思っています。まだまだ不慣れな点が多く、ご迷惑をお掛けすると思いますが、努力してまいりますので皆様のご支援の程をよろしくお願致します。

ご案内

第21期生会

- 期 日 平成18年11月16日(木)・17日(金)
- 場 所 友部グリーンビュー
笠間市(旧友部町) 旭町305
TEL. 0296-78-1122
- 宿 泊 シティーホテル友部
(グリーンビュー隣)
TEL. 0296-78-0101
- 受 付 16日午後2時・鯉淵学園同窓会館

宮城県支部支部総会

- 日 時 平成18年11月18日(土)・19日(日)
総 会 16:00~17:00
懇親会 18:00~20:00
- 場 所 花ごころの湯 新富亭
宮城県宮城郡松島町松島垣の内38-1
TEL. 022-354-5377
JR東北本線「松島駅」下車徒歩10分

故、宮島三男元教授の一周忌追悼会

元教授の宮島三男先生は去る2月18日、郷里の熊本県八代市にてご逝去されました。(享年85歳)
鯉淵学園協同組科及び中協学園の卒業生有志による呼びかけにより、一周忌追悼会を平成19年2月17日に八代市にて開催し、併せて追悼集を発刊する事など、卒業生の出席をはじめ寄稿、資金など協力をお願いしています。

連絡先 追悼事業事務局 伊藤喜代次 (26期)

吉田 仁美

- ①主事補
- ②実務経験栄養士
- ③茨城県 (59期)



4月から1年間、学生食堂での実務経験栄養士として勤務することになりました。よろしくお願ひ致します。
栄養士は1施設に1人というイメージがあり、栄養士としての仕事ができるかとても不安でしたが、卒業後初めての職場となる学生食堂は情報が得られ、質問や相談ができアドバイスも受けられるという環境で、厨房内作業では授業や実習で学んできたことが結びついたり、新しい発見があつたりと、毎日何かを学んでいける所だと感じています。一日一日を大切にしながら経験を積んでいきたいと思ひます。

藤田 星子

- ①主事補
- ②チャレンジファームスクール
(農業短期研修)
- ③鳥取県



農業高校、農業短大を卒業後、今年4月まで青年海外協力隊野菜隊員として、パラグアイ共和国に2年間派遣されておりました。運良く6月から鯉淵学園の研修部実習助手として勤務することができ、とても嬉しく思っています。未熟なところも多々あると思ひますが、精一杯がんばりますのでどうぞよろしくお願ひします。

会費未納者解消のお願い

鯉淵学園同窓会は、母校鯉淵学園がその歴史と伝統を踏まえ、日本で唯一の「食・農教育機関」たる発展をはかるべく、同窓会として学園の在り方や改革検討に取り組み、都度提言活動や実現運動を進めて行く事になりました。

しかし、これら学園改革の成否や活動強化には、現在同窓会財政が枯渇状態にあり、活動資金の確保如何にかかっていると云つても過言ではありません。資金不足から例えれば、この同窓会報なども会費未納者への送付さえ難しくなつてきています。

そこで会費未納者へお願ひを申し上げます。

今般の同窓会の事業への取り組みや活動強化を機に、この際には非とも会費納入を頂き、未納者の解消がはかられるよう切にお願ひを致します。また、同窓会費の納入状況は、総じて卒業期別の古い年代の納入率が高いのに比べて、若い年代の納入率が極端に低い状態にあります。同期会、支部会などでも幹事さんから一言でも会費納入についてふれて頂きたくお願ひ致します。

学園改革へ、卒業母校の胸を張れる学園づくりのためにも会費納入、未納者解消について重ね重ねお願ひを申し上げます。

会長 須田 哲也

編集後記

ひと雨ごとに秋の深まりが感じられる今日このごろ、同窓生のみなさんはいかがお過ごしでしょうか。

本号でもご案内しましたように、同窓会では学園と共催で「鯉淵学園経営大賞」を企画し、新たな試みとしてスタートしました。みなさんの情報等が頼りですので、ご協力よろしくお願ひ致します。

情報と云えば、会報に掲載させて頂いております「支部・同期の動向」の紹介・報告文章を紙面の都合上、できれば4000程度(写真紹介を除く)でお願ひしたいと思います。こちらもまた同窓生のみなさまからの情報が頼りですので、「支部・同期の動向」に限らずお待ちしております。

編集委員